

創造的自己改革への挑戦

平成 31 年 1 月

JA グループでは、政府の「農協改革」の議論等の情勢変化も踏まえつつ、「**農家組合員の所得増大と地域の活性化に向け、創意工夫をこらした自主的な取組みにより、組合員と地域社会から期待される役割を果たす**」ための『創造的自己改革』に取り組んでいます。

この資料では、今年度 1 2 月末までに当 JA が実践してきました自己改革の取組み内容について、今年度の成果も含め抜粋してご報告いたします。

I. 農家組合員の所得増大と農業生産の拡大 . . . 営 農

～～ “農家組合員の笑顔が集まる姿”をめざして ～～

1. 実需者ニーズに基づく多様な契約方式による販売力の強化

～ 播種前・収穫前の事前契約の推進など ～

① 米の販売先や取引状況を農談会等で説明し、主食用米の複数年契約をはじめとする販売強化に加え、生協・他 JA 連携による産直強化などに取り組んでいます。

- ・主食用米の複数年契約（29 年度～31 年産）
- ・醸造用加工米の有利販売契約
- ・小売店のニーズの高いみずかがみ等への品種転換の推進
- ・米の庭先無料引取り、持込みへの奨励措置
- ・秋の詩の早期精算
- ・JA とコープしがによる協同組合間連携

「地場産提携に関する協同組合間協定の協定書」

- ・野菜の買取販売によるインショップ販売(コープしが かたた店、ぜぜ店)
- ・JA 間連携に基づく他 JA 店舗での野菜販売(JA レーク大津、JA おうみ富士)

【成果】◇複数年契約に基づく契約数量出荷への意識の定着化

◇みずかがみの作付拡大 34ha（29 年度 20ha）



② 実需者ニーズの高い業務用多収性品種等の試験栽培、飼料用米の区分管理フレコン出荷、畜産クラスター事業による畜産農家支援などに取り組んでいます。

- ・業務用多収性品種「やまだわら」の試験栽培
- ・水稻苗の密植栽培の実証と提案

【成果】◇やまだわらの作付拡大 7ha

◇水田フル活用の促進

WC S 48ha、飼料米 50ha、酒加工用米 60ha



2. 園芸振興と地産地消の拠点としての直売所等の機能充実

～ 道の駅との連携強化、地元野菜の販売場所の拡大、野菜塾の開催など ～

道の駅収穫感謝祭の開催、各支店での野菜直売コーナー設置など地元野菜の直売強化による園芸作物の生産振興などに取り組んでいます。

- ・ほうれん草、加工用玉ねぎ、イチジク等の生産振興
- ・サラダ用カボチャの試験栽培と作付推進
- ・パイプハウス、定植機のリース事業
- ・水稲育苗ハウスでの野菜づくり(たまねぎ苗の育苗)
- ・トラック市による地元野菜の販売



【成果】◇サラダ用カボチャの作付 10a

◇道の駅での野菜販売高(12月末)

藤樹の里 138,200 千円、妹子の郷 7,599 千円

JA 合計：145,798 千円〔29年度 185,902 千円〕

3. 生産から販売までのトータルコスト低減の取組み

～ 早期引取り・ランク別奨励金等の提案、大規模農家への直送販売など ～

肥料・農薬の早期予約による価格引下げ、早期引取り奨励金、ランク別奨励金、安価な大型規格農薬の提案などによるトータルコスト低減に取り組んでいます。

- ・担い手農家、JA、中間管理機構等行政関係機関による農地集約化会議の開催
- ・水稲元肥一発肥料の全国集約による価格引下げ
- ・肥料の早期予約と早期引取り奨励金
- ・肥料の直送販売、大型企画農薬の提案
- ・大口施設利用者への利用料の割引還元
- ・醸造用加工米の施設利用料の見直し
(水分 22%以上の利用料金一律化)



【成果】◇生産資材等の低減取組みによる収支改善(後掲)

4. 担い手支援を中心とした地域農業の維持、生産現場と JA の結びつき強化

～ 次世代農業者の研修・交流会や情報交換会など ～

営農情報の発信、次世代農業者との研修・交流、認定農業者向けの米の 30 年問題に関する研修会、稲作現地研修会の開催などに取り組んでいます。

- ・「次世代ファーマーズ部会」の設立(H30.02)、運営
(「しがのスマート農業推進フォーラム」への参加)
- ・担い手サポートセンターと JA による担い手訪問活動
- ・常勤役員等による担い手訪問活動

【成果】◇30年度新規就農者：1名



「コシヒカリ」の JA 利用における収支比較(10 アール当りの試算)

(単位:円)

【生産費】 ※ 減価償却費・水利費等は含まず			H28年産米	H30年産米	差 額
資材等 (注) 早期予約・早期引取りの奨励金含む					
①	種苗費	JA 硬化苗(18 枚)	15,480	15,480	0
②	農薬	箱施用剤	2,910	2,910	0
		除草剤	2,690	2,660	△ 30
		防除剤	2,200	2,200	0
③	土改資材 (とれ太郎 20 kg)	7,600	7,600	0	
④	元肥・穂肥一発(すごいね・これいいね)		5,865	3,375	△ 2,520
⑤	分施	元肥(湖西1号・化成肥料 444)	2,688	1,250	△ 1,438
		穂肥(湖西2号・NK 化成 C20 号)	2,610	1,480	△ 1,130
施設利用料					
⑥	22%~26.9%(2,240 円/玄米 1 俵)		18,660	18,660	0
⑦	一発体系生産費計(①+②+③+④+⑥)		55,435	52,885	△ 2,550
⑧	分施体系生産費計(①+②+③+⑤+⑥)		54,838	52,240	△ 2,598

【販売代金等】 JA 米コシヒカリ1等 10a/500 kg、8.33 俵		H28年産米	H30年産米	差 額
	概算金(12,000 円、13,200 円/1 俵)	99,960	109,960	10,000
	施設利用奨励金(平均 12%)	2,240	2,240	0
	精算金(600 円、400 円想定)	4,998	3,332	△ 1,666
⑨	販売代金合計	107,198	115,532	8,334

【JA 利用における収支】		H28年産米	H30年産米	差 額
一発体系収支(⑨-⑦)		51,763	62,647	10,884
分施体系収支(⑨-⑧)		52,360	63,292	10,932

5. 多様な担い手の営農活動への支援や集落機能維持等の多面的な役割発揮の支援

～ 営農相談に対応できる職員の人材育成など ～

営農指導担当職員は各種研修会参加や資格認証取得等の取組みを行うとともに、全職員には日本農業技術検定試験の受験を促進し、職員の資質向上に取り組んでいます。

また、集落営農組織化に向けた支援をはじめ、各種申請手続きの相談支援などにも、行政機関等との連携も行いながら取り組んでいます。

【成果】◇JA 職員の資格取得者：1 級営農指導員 2 名、2 級営農指導員 18 名
農業検定試験合格者 22 名

Ⅱ. 総合事業による地域の活性化とくらしの支援 ・ ・ くらし

～～ “JA の総合事業が地域に貢献している姿”をめざして ～～

1. 総合事業を通じた地域の生活インフラ機能の発揮

～ ふれあいメール便による買い物弱者対応、主食用米の直売拡大など ～

ふれあいメール便、融資担当者・スマイルサポーター・LA(ライフアドバイザー)の増員やスキルアップによる各種相談対応の強化をはじめ、学校給食や保育園等へのお米供給の地産地消・外消などに取り組んでいます。

- ・ ふれあいメール便(移動販売)の拡充
(過疎化・高齢者対策)
- ・ 自衛隊今津駐屯地への主食用米の販売開始
- ・ 各事業所での交通安全街頭啓発活動

【成果】◇移動販売利用者数と供給高(12月末)

高 島： 5,933 人 10,517 千円
朽 木： 4,816 人 7,977 千円
安曇川： 1,335 人 1,314 千円
JA 合計： 12,084 人 19,808 千円
〔29年度 17,287 人 28,000 千円〕



2. 支店を拠点とした共同活動の場づくり、総合相談窓口としての支店機能強化

～ 本支店運営委員会の開催、生協等消費者との交流会の開催など ～

支店・出張所づくり実施計画(支店別の協同組合活動)に基づく感謝デー・夏祭りなどの開催をはじめ、各地域の諸行事への参加(地域貢献活動)、生協との協同組合間協同などに取り組んでいます。

- ・ 無料法律相談会、ローン相談会、土曜日相談会の開催
- ・ 交通安全教室の実施
- ・ 年金友の会の仲間づくり活動
(演芸大会、グランドゴルフ大会、日帰り旅行等)
- ・ 各事業所での場所別協同活動の取組み
(夏祭り、お客様感謝デー、清掃活動、消防・防犯活動等)
- ・ 生協(コープしが)組合員による農業体験(生消交流事業)



3. 高齢者・女性・子供を重点対象としたJA暮らしの活動の重点メニューの設定・実践

～ 健康増進活動計画の策定・実践、親子農業体験等の食農教育など ～

女性加工グループの手作りおかずの店「ぐー」の設置、休日歩行運動（データヘルス）、運動セミナー、親子農業体験等の食農教育などに取り組んでいます。

- ・健康寿命 100 歳プロジェクトの展開
（健康増進活動計画の策定・実践、運動セミナー）
- ・厚生連健診車による組合員健診、事後指導の実施
- ・親子農業体験、食農教育課外ツアー〔キッズクラブ活動〕
（田植え、稲刈り、さつまいも収穫、みそづくり）
（浄水場、造幣局、食のミュージアム大阪）
- ・女性大学“きらりんぐ”の開校
- ・料理教室の開催〔JA 女性部グループ活動〕
- ・高島市 JA グループ杯ミニサッカー大会の開催
（29 年度当 JA 共催、30 年度市内 4 JA 共催）



【成果】◇組合員健診

本店：48 名、朽木：15 名

事後指導：23 名

◇親子農業体験

田植え：45 名、課外ツアー：42 名

◇女性大学“きらりんぐ”：16 名



Ⅲ. 自己改革を支える JA 経営基盤の確立・・・JA 経営

～～ “地域の協同組合として存在意義を発揮している姿”をめざして ～～

1. 自己改革が実践できる態勢づくり

～ 改正農協法に準拠した新役員体制、自己改革実践のための人材育成など ～

改正農協法に対応した新役員体制(H29. 6 改選)をはじめ、会計監査人の設置に向けた対応、内部統制の整備、内部けん制態勢の確立等に取り組むとともに、役員の実業活動への積極的参加や職員の協同組合運動の実践者としての育成などに取り組んでいます。

- ・役員候補者選出の早期対応、認定農業者や女性理事等の就任
- ・理事会開催の弾力的運営(農繁期の開催時間の変更等)
- ・人事施策の改善(給与改定等)
- ・組合員アンケートの試行(29 年度)
- ・全組合員へのアンケート調査
- ・コンプライアンス研修(全体、部署別)

【成果】◇29 年度組合員アンケート(無作為抽出)

回答者数：363 名

(正組合員 208 名、准組合員 155 名)

◇30 年度組合員アンケート

現在、全組合員(約 3,900 名)を対象に実施中 * 2 月末完了予定



2. 女性組織等の育成と活動の展開

～ 複数組合員化、女性の経営参画、女性組織への参加者拡大など ～

合併 15 周年での組合員加入促進や増資運動の取組みをはじめ、女性の運営参画や経営参画をめざして、女性総代(10%以上)や女性理事の登用などに取り組んでいます。

- ・組合員拡大運動(特に女性組合員)
- ・女性理事 2 名体制の継続
- ・女性大学参加者への組合員加入の奨励
- ・女性部活動メニューの拡充
- ・女性組織への参加者拡大(特に若年層)

【成果】◇組合員数：4,551 名(12 月末)

正組合員：1,933 名(うち女性 235 名)

准組合員：2,618 名(うち女性 837 名)

新規加入者：78 名(うち女性 40 名)

正組合員：11 名(うち女性 2 名)

准組合員：67 名(うち女性 38 名)

◇JA 西びわこ女性部

部員数：152 名(12 月末)

30 年度新規加入部員：11 名



3. 中長期的な財務の健全性確保と施設整備計画策定・実践

～ 既存施設の稼働見通しや各事業所機能の見直し等による事業再編や組織再編など ～

不稼働施設(山菜加工施設、安曇川CE2号機、麦乾施設)の解体処分をはじめ、支店・出張所の事業再編を行うことにより、経営基盤の強化や財務の健全性確保等に取り組んでいます。

また、30年度下期には、大津・湖南・高島地区の8JAによる合併推進研究会が発足し、広域による組織再編(JA合併)に向けた研究・検討を行っています。

- ・ 29年度策定の事業再編方針に基づく各事業所機能の再編
(高島支店の営農経済課、朽木支店・本庄出張所の信用共済課の本店統合)
- ・ JAの組織・事業・経営の将来見通しをふまえた広域JA合併に向けた研究、検討

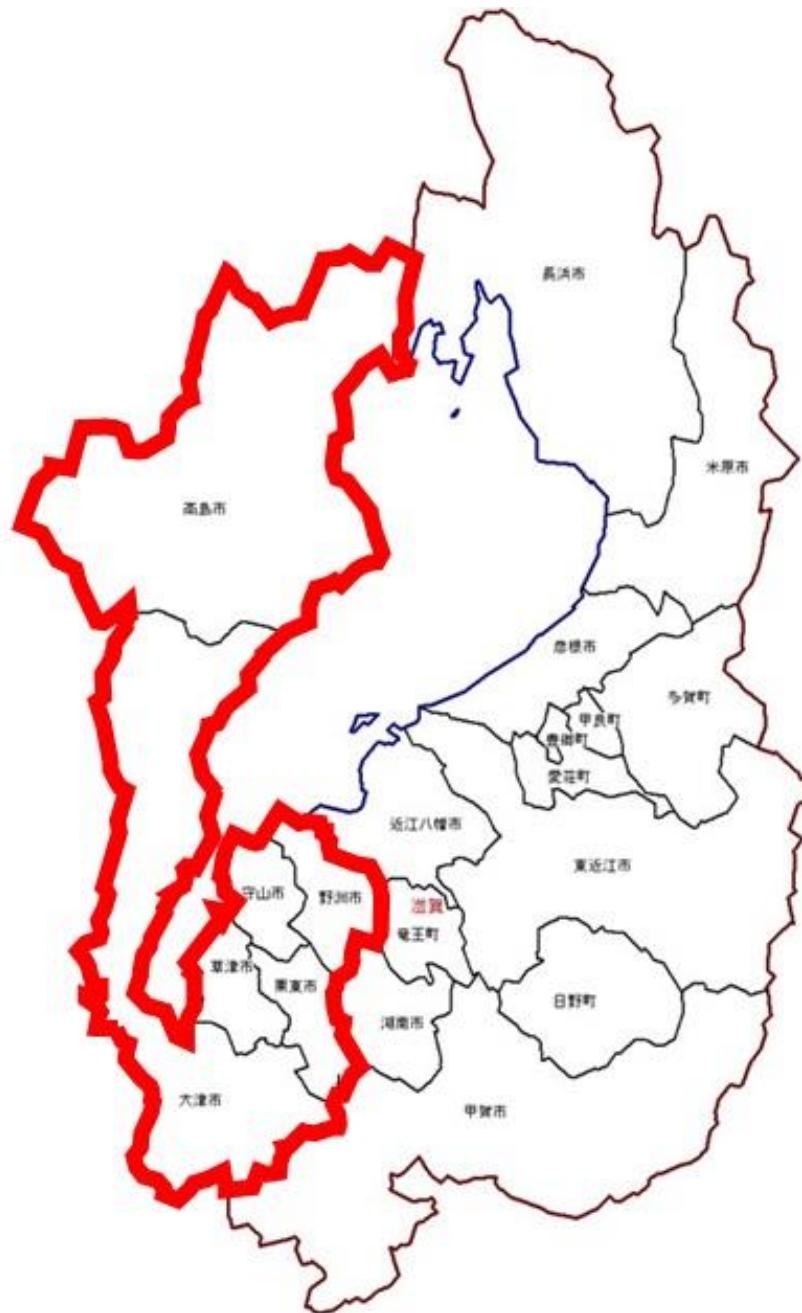
【成果】◇本庄出張所へのATM設置、運用(平成30年6月)

◇安曇川カントリーエレベーター2号機解体工事の実施*3月末完了予定

◇大津・湖南・高島地区8JAによる合併推進研究会の設置(平成30年10月)



現在、組織再編の研究・検討を進めているエリア



大津・湖南・高島地区農業協同組合合併推進研究会

レーク大津農業協同組合
 草津市農業協同組合
 栗東市農業協同組合
 おうみ富士農業協同組合

マキノ町農業協同組合
 今津町農業協同組合
 新旭町農業協同組合
 西びわこ農業協同組合